

野外体験活動 ある夏の思い出



▲子どもに指示する中島さん

10年前スタッフとして初めて参加したときは高校生でした。そして今27歳になり、振り返ってみると、よく続けてこれたというのが本音です。これは、ボランティアスタッフの仲間や事務局として支えてくれている、社会教育課の人たちの献身的な協力のおかげだと思っています。今回わたしが実行委員長を引き受けたのは、青年ボランティア組織の先行きに不安を感じ、後継者を育てなければいけないと思ったのが大きな理由です。規模は拡大しなくても活動を継続し



実行委員長
中島 伸一郎さん
Shinichiro-Nakashima
◆1回目からスタッフとして参加し、子どもと遊ぶのが大好きな大きな子ども。公務員

自分たちが楽しくなければ
スタッフを代表して
今年参加した子どもが大きくなったら、自分たちの仲間となり、今度はスタッフとして活躍してもらいたい。

てさえいけば、毎回必ず、新たな発見があり、楽しい時間を過ごすことができます。

委員長として一歩下がった位置から全体をまとめ、自分の姿から、ほかのスタッフや子どもたちに何かを感じてもらい、そして、楽しんでもらえればと思っています。幸いなことに、8月2日の最終日には、15人の子どもたちをそれぞれの親さんの元にお返しすることができ、みんな笑顔で別れることができました。これは本当に良かったと思います。「チャレンジみのかも」の魅力は？



▲子どもと戯れる生活リーダー(スタッフ)



社会教育課長
佐橋 敏春
Toshiharu-Sahashi

百聞は一見にしかず

社会教育課では、青少年の健全育成の一環として、今年も野外体験活動事業を実施しました。

子どものときに得る経験や体験は、その成長過程で素晴らしい力を発揮します。

今回は3泊4日という短い期間でしたが、異年齢の子どもたちのさまざまな体験は、自主性や思いやり、そして、きずなをはぐくんだと思います。この貴重な体験をこれからの生活に生かしくことで、今後、大きく飛躍してくれることを念じています。



▲傷の手当てをする土屋さん

職場では高齢者や病気の人を相手に仕事をしているので、子どもと接することは少なく、この活動に参加することは本当に貴重な経験になっています。そして、子どもだけでなく、多くの仲間ができました。毎回新たな発見があり、自分自身も人間的に成長したと思います。

参加者を

見守る立場でいましたが、逆にみんなから元気と勇気をもらって、わたしの方がとても楽しませてもらいました。登山は正直大変でしたが、とてもリフレッシュできたと思います。また一つ思い出が増えました。



看護スタッフ
土屋 郁恵さん
Ikue-Tsuchiya
◆専門家の立場からスタッフも含めた全員をサポートする、お母さんの存在。現役看護師

普段は市内の医療機関で働いています。医療スタッフとしてこの活動に参加するのは3回目になります。最初は、職場から派遣されて参加しましたが、いつの間にか、とてもなじんでしまい、今年は自主的に休みをとって参加しました。

立場的には、参加者みんなの健康管理が主な役割になっています。ほかのスタッフとは少し違った視点から全体を見なければなりません。幸い大きな事故やけがをしたということもなく、無事帰ってこれてほっとしています。

▶飛騨頂上から三の池を望む



▼ガレ場を下山する一行



チャレンジにわたしが参加するのは、みんなとワイワイ騒ぐのが楽しいからです。でも何よりスタッフの人たちの存在が大きいからかな。一生懸命遊んでくれるし、相談も聞いてくれるし、ずっと同じ時間を過ごしているの、学校の先生とはちよつと違う存在だと思います。将来は、わたしもそんな人間になりたいと思っています。今年は、中学生は2人だけだったので、班長として、けんかしなように、みんなが楽しめるように気に掛けながらいましたが、結局自分が一番楽しんできました。

夏の思い出をつくるために参加しました。山は涼しいし、自然と触れ合えるので楽しみにしていました。でも、登山は結構きつかったです。仲間と励まし合って頂上に立ったときは最高の気分でした。自分でもやればできることが分かって、少しは成長したかなと思います。



▲往復約7時間半、歩き続けました

娘は4年連続で参加させてもらいました。毎年、帰ってきたときの娘の変化に驚かされています。日焼けした姿と、目の輝きを見ると、貴重な体験をしたのだなと想像できます。

最初は、親元を離れて初めての長期宿泊で大変心配しましたが、スタッフが多いことや、事前研修でしっかり保護者に説明されるのが安心の材料になりました。

また、もともと無口な娘でしたが、このチャレンジに参加するようになって、子どもとの会話がとて増えてうれしく思っています。家族旅行ではどうしても、甘えが出てしまいがちですが、年齢や学校が異なる子どもと、普段の学校生活では味わえない体験が、本人にとって、とても新鮮な体験になっているようです。

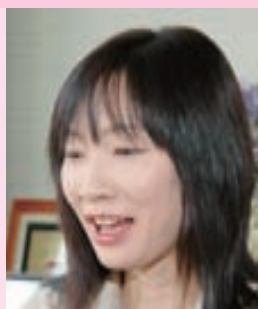
ぜひ、これからも毎年続けてもらいたいと思っています。



班長 西中学校2年
山田 萌々さん
Momo-Yamada



班長 西中学校2年
羽賀 愛梨さん
Airi-Haga



山田ゆかりさん (太田町)
◆3年前から毎年次女が参加している

夏の思い出ができました
参加者を代表して
上級生として、みんなをまとめなければと思っていましたが、結局自分たちが一番楽しみました。

子どもを参加させた保護者の声